

前橋、桐生にセンター

県内外から 人材を募集

豪雪の影響を受け、除雪を手伝うボランティア活動が県内各地で本格化している。前橋市では18日、生活支援が必要な高齢者や障害者と、活動希望者を調整する災害ボランティアセンターが発足。桐生市でも19日に始まる。高校生や大学生も地域貢献に汗を流し、支援の輪で真冬の大災害を乗り切ろうとしている。

ボランティア活動本格化

雪かき奮闘 非常食配達

ンター」を開設した。県内外から人材を募集し、生活困難者宅の雪かきや非常食の配達、医療福祉施設の雪かき、資機材の貸し出しなどに取り組んでもらう。すでに豪雪地帯の新潟、長野両県の支援団体の協力が決まっている。

18日の段階で、市を通じて「食料が尽きた」「病院に行けない」といった支援要望が58件寄せられた。緊急性の高い順に対応する方針で、久保原秀人所長は「資材も人材も除雪経験もないゼロからのスタート。手探りでできる限りのことほしたい」と話した。

どり両市の高齢者や障害者世帯を対象に除雪ボランティア事業を始める。自力の除雪や、家族や近隣住民の協力が困難な場合を想定し、支援を必要とする人からの相談を受け付け、協力の申し出を募る。

県共同募金会は災害支援制度を適用して前橋のセンターに300万円の配分を決定、桐生への配分も検討する。

群馬パース大硬式野球部は19日、JR高崎問屋町駅から同大までの約1.5キロで雪かきをする。10人が参加予定で、衣川隆監督は「地域の皆さんが歩きやすくなるように、少しでもお役に立ちたい」と話した。

前橋市社会福祉協議会ボランティアセンターは18

日、日吉町の市総合福祉会館内に「大雪たすけあいセ

ンター」も19日、桐生、み

常警高の学生寮で生活す